

L'aile d'Howl



2013 年は岩手の名が全国に轟いた
1 年でした！来年もハンドボール界に
岩手県が旋風を起こせますように!!

【ライル・ドウル・ホウルの翼(仏語)】

2013 年 12 月号

2013 年もありがとうございました。

第 1 回全国 U-12 指導者研修会に参加!!



去る11月23日～24日、東京都赤羽にある味の素ナショナルトレーニングセンターにて、第1回全国U-12指導者研修会が開催され、岩手県からは私編集長を含め5名の少年団の指導スタッフが参加してきました。北は北海道、南は沖縄から、まさに全国各地から指導者が約60名集結し、2日間に渡る研修会を共にしました。

まずは、大西武三先生(元筑波大学監督)より「ジュニア指導の重要性について」というテーマにおいて、基調講義をいただきました。ハンドボールの登録競技人口を見ていくと、小学生は全国で約3,900人、スポーツ全体では23位の人数。中学生は約27,000人で14位。それが高校では約38,000人となり、12位までランクアップするそうです。つまり、他の競技は登録者数が減少傾向にあるのに対し、ハンドボールは増加しており、これは、中学校や高校から競技を始める子が多いからだそうです。言い換えれば、ジュニア期の育成が少ないということでもあり、いかに小学生のうちにハンドボールに触れさせるかが非常に重要とのことでした。また、最終的にチーム戦術を高めていくのは上のカテゴリーになってからであり、最初のうちは個人能力を高めるよう取り組み、習慣化されたテクニックをゲーム中の状況に合わせて適切に判断できる選手を育てることが大切だと話されました。過去に岩手県で実施した講習会で、子どもたちがバリッチ選手の倒れこみステップシュートにチャレンジしている映像も紹介されました。

第二部では、U-16 日本代表監督(東久留米西中顧問)の尾石智洋先生による実技講習が行われました。ジャージに着替えた指導者たちは尾石先生の指導のもと、ステップワークの練習に取り組みました。(まずは指導者ができるようになってから、子どもたちに指導!) 効果的なフェイントのためには、きちんとストップすることが重要で、そのためには足の裏全体を使ってしっかりと止まることが必要です。暖かい体育館の中でじんわりと汗をかきながら、しっかりとステップする必要性を実感した講習でした。

2 日目は、「私のジュニア指導理念」というテーマでのシンポジウムからスタートしました。大分県・下郡ハンドスポ少の古谷先生、東海ハンドスクールの濱野先生、そして日本協会指導委員会の亀井先生の3名がパネリストとなり、指導方法や抱えている課題や悩みなどについて意見交換をしました。下郡スポ少さんではとにかくパスを大事にしており、「おじぎしないパス」を心がけているとのこと。東海ハンドスクールさんは、愛知県の実業団や大学等の協力も得て、連携しながら指導されているとのこと。その練習環境に羨ましさを感じる一方で、団員の減少、特に女子の団員数が減っていることが、多くの少年団で抱えている共通の悩みであることも分かりました。その点について、花巻市で取り組んでいる小学生ハンドボール教室の事例を紹介させていただき、また不来方高の全国優勝などの好影響により、岩手県では小学生の競技人口が増えていることもお話をさせていただきました。

今回の研修会に参加して、これから自分自身が少年団指導者として取り組むべきこと、そして日本のハンドボール界の発展のため、ジュニア世代の育成が非常に重要であることを改めて感じる事ができたと思います。全国の指導者の皆さんと情報交換しながら、是非今後の指導に活かしていきたいと思います。

県総合 全国1位の不来方の優勝で2013年も締めくくり!



12月6日～8日、花巻市総合体育館にて、2013年を締めくくる岩手県総合選手権大会が開催されました。金曜日からスタートした大会とあって、初日に試合を迎えた社会人チームはメンバーが思うように集まらず苦戦を強いられたようですが、社会人と高校生、そして今月末に全国大会を控えた中学生JOC選抜が、今年最後の大会にふさわしい熱戦を繰り広げてくれました。
<男子> 第一シードの不来方高は、全国優勝した3年生メンバーに1年生を加えた布陣。2回戦で、先輩たちである不来方クラブと対戦します。前半6



来方高は前半で8点差をつけ、その後を控えメンバーに託します。しかしここで、JOC選抜が怒涛の反撃。後半はぐんぐん点差を詰め、矢巾中の遠藤渉選手が、兄である遠藤拓也GKからゴールを決め、ついに同点。ここで3年生をコートに戻した不来方高でしたが最後の攻撃も得点に結びつかず、なんと7Mコンテストに突入！会場のボルテージと緊張感が高まる中、さすが両チームとも確実にシュートを沈めていきますが、JOC選抜5人目のボールがポストに弾かれるとそこでゲームセット。不来方高が薄氷の勝利を収めました。JOC選抜はこの健闘を自信に変えて、本選大会を頑張りたいですね。



最終日、国体向け強化チームのHC岩手、そして全国2冠を果たした不来方高が決勝で激突します。不来方高は前半15 - 10とリードして後半に突入すると、後半もそのリードを保ち25 - 19で勝利。やはり全国優勝したチームは強かった！社会人チームを下して、不来方高が2013年最後の大会で岩手県の頂点に立ちました。

<女子> 初日、高校生チームが次々と社会人チームを撃破し、2回戦へと駒を進めます。U-16とJOC選抜の試合は、前半先輩チームがリードして折り返すも、JOC選抜も意地の反撃を見せ、終盤は同点に追いつくという展開。しかし、ここで決めれば1点差という場面でゴールが決めきれず、17 - 15で試合終了。U-16が先輩の立場を守った形となりました。2日目の準決勝に勝ち進んだのは、不来方高、盛岡白百合高、岩手桐花クラブ、そして富士大学の4チーム。高校生同士の一戦は、3年生主体のメンバーの不来方高に対し、白百合は県高校新人戦で優勝した新チームで試合に臨みます。前半、両サイドが得点を重ねる白百合に対し、不来方高は熊谷葵選手が中央からのカットインで反撃します。なんとか不来方高が1点リードを守り、後半序盤の連取で引き離すかに思われましたが、白百合も後半23分同点に追いつきます。しかし一進一退の試合は、最後ゴールをねじ込んだ不来方高が3年生の意地をみせ、翌日の決勝戦に残りました。決勝戦はその不来方高と富士大学の顔合わせ。先日の全日本インカレで初のベスト8に輝いた富士大学は、メンバーこそ1・2年生が中心だったもののその貫禄を十分に発揮し、22 - 14で不来方高を撃破し、2013年を優勝で締めくくりました。



<小学生の部> 今年4月、滝沢村で産声をあげた新チーム・ヴォルペ滝沢が、公式戦初登場！これまでずっとリトルハンド、矢巾フェニックス、そして花巻クラブジュニアの三つ巴の戦いでしたが、第4のチームの登場によりついにトーナメント方式に移行。岩手県の小学生部門に新たな息吹が吹き込まれました。



男子は19 - 16で矢巾フェニックスが優勝。女子の部ではリトルハンドがダブルスコアで決勝を制し栄冠を手に入れました。花巻クラブジュニアは全てのカテゴリーにおいて第3位、ヴォルペ滝沢は第4位でした。来年もこの4チームでしのぎを削っていききたいと思います。

L'aile d'Howl (ライル・ドウル)
2013年12月号
2013年12月25日 発行
発行：花巻市ハンドボール協会
Special thanks to
リトルハンド様